

2.

研究プロジェクト

2023 年度研究プロジェクト成果報告

(I) IGS 研究プロジェクト

(II) 外部資金研究プロジェクト

(III) 海外の助成金による研究プロジェクト

▶ 2023 年度研究プロジェクト成果報告

学際的、先駆的ジェンダー研究を目指して

ジェンダー研究所は 2015 年以來、グローバル女性リーダー育成研究機構の中核的な研究機関として先端的ジェンダー研究に取り組んできた。その前身であるジェンダー研究センターは、国際的なジェンダー研究のネットワークにおける東アジアにおける重要なハブとして活動し、21 世紀 COE プログラム『ジェンダー研究のフロンティア』（2003～2007 年度）をはじめとした研究プロジェクトを通じて広く注目を集めてきた。ジェンダー研究所はこの研究成果を引き継ぎつつ、伝統的な学問分野に縛られない学際的で先駆的なジェンダー研究を志している。ジェンダー研究所は、アジアにおけるジェンダー研究の拠点を目指し、国際的な共同研究と、その成果発信を積極的に進めており、蓄積された研究成果を広く社会へ還元していく。

先端的な研究を推進し、広い学術ネットワークを構築

ジェンダー研究所は、(I) IGS 研究プロジェクト、(II) 外部資金研究プロジェクト、(III) 海外の助成金によるプロジェクトにおいて、先端的な研究を推進している。とりわけ IGS 研究プロジェクトでは学内研究員、客員研究員、研究協力員の協力を得ながら広い学術ネットワークを構築し、その成果を意欲的に発信している。2023 年度もそれぞれの研究分野において研究会や公開セミナー、国際シンポジウムを実施したほか、成果出版物の刊行、国際共同研究や国際ネットワークの構築に取り組んだ。

アジア工科大学院大学 (AIT) における院生交流 (本報告書 54～55 頁参照) は、派遣 11 名・受け入れ 2 名というこれまでを大きく上回る規模での実施を実現させることができた。また研究所メンバーも国内外での学術ネットワークを拡大させ、学会発表や講演などを活発に行った。個々のプロジェクトの研究概要については、本報告書 16～21 頁を参照していただきたい。

国際シンポジウム、IGS セミナー、研究会の開催と学術雑誌『ジェンダー研究』の刊行

各研究分野におけるシンポジウムやセミナーの開催と、『ジェンダー研究』の刊行により、成果発信に力を入れた。

2020 年度以來、ジェンダー研究所主催の企画の大半は Zoom を利用し、オンライン配信ないしオンラインと対面のハイブリッドにおいて実施されている。Zoom の導入は、当初は新型コロナウイルス感染症対策において進められたが、オンライン配信には、これまで地理的距離や生活パターン、健康上の理由などさまざまな事情のためにお茶の水女子大学に直接足を運ぶことが難しい方々も参加ができるという大きな利点があることがわかった。ジェンダー研究所ではより多くの視聴者の参加を実現するため、企画によっては Zoom ウェビナーを使用することで質の高いオンライン配信を心がけてきた。一方で、学術ディスカッションはイベントの実施時間中に完結するわけではなく、対面での交流を積み重ねていくことが重要な意味をもつため、会場に集まったイベントも可能な限りで実施している。

ジェンダー研究所は、年に 1 度、学術誌『ジェンダー研究』の刊行を続けている。最新刊である第 26 号は、2022 年度に実施された IGS 国際シンポジウムにおけるディスカッションを受け、論文 1 本とコメント 3 本から成る特集「リプロダクティブ・ジャスティス：妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く」が巻頭を飾っている。第 26 号は、この特集に加えて投稿論文 4 本、書評 17 本を収録し、2023 年 7 月に刊行された (本報告書 60～62 頁参照)。

2023 年度研究プロジェクト 分野別一覧

(I) IGS 研究プロジェクト
「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究
東アジアの越境的女性運動
資本と身体ジェンダー分析
性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析
反公害/環境運動史におけるジェンダー分析
グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー
文学・芸術文化表象とジェンダー
(II) 外部資金研究プロジェクト
科学研究費基盤研究 B (課題番号: 23H03654) フェミニズム理論による新たな国家論の構築: ケア概念と安全保障概念の再構想から
科学研究費基盤研究 B (課題番号: 23H00888) 日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究
科学研究費基盤研究 B (課題番号: 20H01468) 新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー
科研費国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 B) (課題番号: 21KK0033) 人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー
科学研究費基盤研究 C (課題番号: 19K12603) 香港における移住女性の再生産労働力配置: 「グローバル・シティ」のジェンダー分析
科学研究費基盤研究 C (課題番号: 23K11676) 「からゆきさん」にみる性・移動・再生産領域
科学研究費若手研究 (課題番号: 23K17134) 日本による親ジェンダー外交の展開: 安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析
(III) 海外の助成金による研究プロジェクト
ノルウェーリサーチカウンシル (287699) INTPART 「ジェンダー平等/ダイバーシティ: ノルウェー・日本共同研究」
ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku (UTF-2020/10135) UTFORSK 「ノルウェーと日本におけるジェンダー平等およびダイバーシティ教育」

(I) IGS 研究プロジェクト

IGS 研究プロジェクト 「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究
【研究担当】 申琪榮 (IGS 教授) 【共同研究者】 三浦まり (上智大学教授)、ステイール若希 (元名古屋大学特任准教授)、 濱田真理 (Stand by Women 代表)、Soo-hyun Kwon (Sogang University) ほか 【概要】 東アジア地域はその経済発展の成果により国際的に注目されているが、政治の民主化の道筋は一様ではない。本研究プロジェクトでは、日本と韓国、台湾の議員を対象としたアンケート調査による国際比較分析を行ない、東アジア地域において、女性の政治代表性を向上または妨げる要素は何か、政治制度におけるジェンダー多様性を実現させるにはどのようにしたらよいかを検討する。

IGS 研究プロジェクト 東アジアの越境的女性運動
【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授) 【概要】 今日の女性運動は、路上や広場、公共交通機関、大学キャンパス、議場、ジャーナリズム、サイバー空間など、さまざまな場で実践され、課題解決に向けた国際的連帯とアクションを生み出している。本研究は東アジアにおけるそのような越境的女性運動の展開について考察するものである。具体的には (1) ILO「家事労働者のためのディーセント・ワークに関する条約」(第 189 号条約) に関連する労働運動、(2) 反軍事化をめぐる女性たちの運動、(3) 中国の女権主義者たちのトランスローカル/トランスナショナルな運動に目を向ける。

IGS 研究プロジェクト 資本と身体ジェンダー分析
【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授) 【共同研究者】 足立真理子 (IGS 客員研究員)、板井広明 (専修大学准教授/IGS 研究協力員) 【概要】 本プロジェクト「資本と身体ジェンダー分析：資本機能の変化と『放逐』される人々」は、グローバル金融危機以降の資本の中核機能の変化を分析する。サスキア・サッセンの「放逐 expulsions」概念に着目して、従来の身体断片化や排除/包摂の概念では把握不能な「放逐」の「常態化」をジェンダーの視点から分析する。

(I) IGS 研究プロジェクト

IGS 研究プロジェクト

性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析

【研究担当】 嶽本新奈 (IGS 特任講師)

【概要】

本研究プロジェクトは、開国以降に海外へ渡航し、渡航先で性売買をしていた女性たち（「からゆきさん」）の状況を再生産領域の観点から考察することを目的としている。「からゆきさん」については性売買の問題のみに注目されがちだが、女性たちの再生産領域の問題と連関する「経験」として捉える必要があり、女性たちの生涯を視野に入れて考察する。

IGS 研究プロジェクト

反公害/環境運動史におけるジェンダー分析

【研究担当】 嶽本新奈 (IGS 特任講師)

【共同研究者】 西亮太 (中央大学准教授)、番園寛也 (熊本学園大学水俣学研究センター客員研究員)

【概要】

天草に建設される石炭火力発電所への反対運動として始まった天草環境会議は 2023 年で 40 回目を迎えた。この環境会議は、反公害運動が下火になった 1984 年の段階で石炭火力発電建設を公害と環境の複合的な問題としてとらえており、国内外の運動ネットワークと知的影響関係を持っていた。この運動の歴史的な歩みと運動内外におけるジェンダー的差異の機能や役割を資料と聞き取りをとおして検討する。

IGS 研究プロジェクト

グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー

【研究担当】 本山央子 (IGS 特任 RF)

【概要】

本研究プロジェクトは、グローバル政治経済構造が変容する中で、日本がいかに国際ジェンダー平等規範と交渉しつつ、内的ジェンダー秩序との矛盾を統制しながら「先進国」としての特権的地位や国内における権力の正統性を主張しようとしているかを、主に安全保障や外交政策へのジェンダー／フェミニズムの導入について検討しようとするものである。

IGS 研究プロジェクト

文学・芸術文化表象とジェンダー

【研究担当】 戸谷陽子 (IGS 所長／お茶の水女子大学教授)

【概要】

文学や芸術文化表象（ポップカルチャーおよびサブカルチャーを含む）、広告を対象にそのジェンダー表象を分析し、日常にみられるジェンダー意識の変遷を跡づける。

(II) 外部資金研究プロジェクト

<p>科学研究費基盤研究 B (課題番号: 23H03654)</p> <p>フェミニズム理論による新たな国家論の構築: ケア概念と安全保障概念の再構想から</p> <p>【研究担当】 申琪榮 (IGS 教授) [研究分担者]、 本山央子 (IGS 特任 RF) [研究分担者] 【研究代表者】 岡野八代 (同志社大学教授) 【期間】 2023~2026 年度 【概要】 現在、政治学の主要な研究対象であった国家は、市民社会との関連だけでなく、より広くより複雑な形で、国際社会、環境、経済、そしてジェンダーといった視点から、その歴史を踏まえて問い直される時がきている。そこで、本研究では、第二波フェミニズム運動を受けて深化した 90 年代以降のフェミニズム理論を批判理論として捉え、男性中心主義を克服するための鍵をケア労働の配置とその権力的分配の在り方の刷新のなかに見出すことによって、武力を背景とした安全保障概念を見直し、環境や国際社会にまで射程を拡げたフェミニズム理論に依拠した国家論を構想する。</p>
<p>科学研究費基盤研究 B (課題番号: 23H00888)</p> <p>日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究</p> <p>【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授) [研究分担者]、 平野恵子 (横浜国立大学准教授/IGS 研究協力員) [研究分担者] 【研究代表者】 定松文 (恵泉女学園大学教授) 【期間】 2023~2025 年度 【概要】 本研究は以下二つの課題から構成される。課題 I では現在の家事・ケア労働市場・準市場・非市場における需要と労働者および経験者の労働実践と就業選択の理由に関する定性的調査として、現在の移住家事・介護労働者および日本での介護・ケア労働の経験者への聞き取り調査を計画している。課題 II は移住家事・ケア労働者の連帯と社会変革の主体性の研究である。調査からキーパーソンを選び、複数回の聞き取り調査により地域社会の再生産を行う主体性を析出する。アジア諸国と国際労働組合総連合 (ITUC) 等における家事・ケア労働者の運動と連帯の動向を調査し、グローバルな潮流の中での日本の移住労働者との連携や運動の展開について考察する。</p>
<p>科学研究費基盤研究 B (課題番号: 20H01468)</p> <p>新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー</p> <p>【研究担当】 大橋史恵 (IGS 准教授) [研究分担者]、 足立眞理子 (お茶の水女子大学名誉教授/IGS 客員研究員) [研究分担者] 【研究代表者】 堀芳枝 (早稲田大学教授) 【期間】 2020~2023 年度 【概要】 本共同研究は、IT-BPO の実証研究と国際比較によって、アジアについての新しい国際政治経済学を構築するものである。具体的には IT-BPO 産業の新国際分業の成立にともなう女性の労働力の再配置と、成長の果実としての中間層の成長と消費、都市化の進展、さらにはこうした経済社会の変容が、各国の民主主義に与える影響を国際比較から検討する。</p>

(II) 外部資金研究プロジェクト

科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 B）（課題番号：21KK0033）

人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー

【研究担当】大橋史恵（IGS 准教授）[研究分担者]

【研究代表者】堀口正（大阪公立大学教授）

【期間】2021～2024 年度

【概要】

本研究は科研費・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））を受け、2021 年 12 月から 2025 年 3 月にかけて実施される国際共同研究のプロジェクトである。人民公社期（1950 年代～70 年代）の中国農村における生活秩序の変化とジェンダーについて、資源配分のあり方に着目して、実証的に検討することを目的とする。

中国農村では、1949 年の「暫定憲法」や 50 年の「婚姻法」「土地改革法」の公布、また人民公社制度の展開により、封建的な慣習の廃絶が進められるとともに男女平等の制度的基盤が構築されていった。ところが、生産労働への参加の程度の男女差（労働点数に対する女性差別の存在も）、耕地や水利施設などの共有資源へのアクセスに女性と男性とでどの程度違いがあったのかなど、不明な点が多い。さらに公共食堂や託児所の現実的な利用状況、家事やケアなど再生産労働の性別分業についても、研究の空白部分になっている。

以上のことから、①各地農村における人民公社期の資源配分のあり方を解明すること、②世帯内外における生産・再生産労働の労働力配置の実態を考察し、「村」や「家」の権力関係や規範にどのような揺らぎがあったのかを解明すること、③さらに①②と関係する問題として、国家レベルの指針や計画生育が基層社会における生活秩序に与えた影響を解明する。

科学研究費基盤研究 C（課題番号：19K12603）

香港における移住女性の再生産労働力配置：「グローバル・シティ」のジェンダー分析

【研究代表者】大橋史恵（IGS 准教授）

【期間】2019～2023 年度

【概要】

本研究は、香港社会において異なる移住女性による再生産労働力がどのように配置されてきたかを、中国人家事労働者と外国籍家事労働者およびその雇用主を対象としたオーラル・ヒストリーの聞き取りから明らかにするものである。香港が輸出志向工業化路線から東アジアの金融・貿易サービスの中枢を成す「グローバル・シティ」へと転換した時期は、外国籍の家事労働者の受け入れが拡大していくとともに、主に広東省に出自をもつ中国人女性の労働力配置に変化が生じた時期と重なる。1980 年代末から今日までの香港の社会経済構造の変動において、トランスナショナルにあるいはトランスローカルに移動して家事労働者になった女性たちはどのように受け入れられたのか。異なるケアの担い手たち（移住女性）と受け手たち（雇用主）の「ケアの記憶」を通じて香港の再生産領域の変化をとらえたい。

(II) 外部資金研究プロジェクト

科学研究費基盤研究 (C) (課題番号: 23K11676)

「からゆきさん」にみる性・移動・再生産領域

【研究代表者】 嶽本新奈 (IGS 特任講師)

【期間】 2023～2025 年度

【概要】

「からゆきさん」の移動を現地における再生産労働の需要と供給の観点から把握することで、その移動現象を構造的に解釈することが可能になると考える。この視点は、娼館を出て以降の女性の選択と経験を「経済的営為」の選択肢として解釈することを可能にし、より包括的に考察することができる。こうした「からゆきさん」の「経済的営為」の諸相を考察すべく、再生産労働概念を用いて彼女たちのミクロな経験と、国家・植民地・コミュニティというマクロな動きを接合し、その構造を明らかにする。

科学研究費若手研究 (課題番号: 23K17134)

日本による親ジェンダー外交の展開: 安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析

【研究代表者】 本山央子 (IGS 特任 RF)

【期間】 2023～2027 年度

【概要】

本研究は、日本が国内ジェンダー秩序との矛盾をいかに統制しながら、国際ジェンダー規範との交渉を通して「先進国」としてのアイデンティティを構築し特権的地位を主張してきたのか明らかにすることを目的としている。明治期以降の外交を通じた国際ジェンダー規範との交渉を包括的に把握し、特に2010年代以降の外交におけるジェンダーの位置づけの変化について、歴史的植民地主義、安全保障の再定義、新自由主義的ガバナンスの台頭という3つの要因に注目して分析を行う。

(Ⅲ) 海外の助成金による研究プロジェクト

ノルウェーリサーチカウンシル (287699)

INTPART 「ジェンダー平等／ダイバーシティ：ノルウェー・日本共同研究」

【研究担当】

石井クンツ昌子（お茶の水女子大学理事・副学長：本学側代表）

戸谷陽子（IGS 所長／基幹研究院人文科学系教授）

小玉亮子（IGS 研究員／基幹研究院人間科学系教授）

吉原公美（リサーチ・アドミニストレーター：事務局）

仙波由加里（IGS 研究協力員）

佐野潤子（IGS 研究協力員／東京家政学院大学現代生活学部現代家政学科教授）

【期間】 2019～2023 年度

【概要】

ジェンダー平等とダイバーシティに関する、NTNU ジェンダー研究センターとの共同プロジェクト。ノルウェーと日本のジェンダー平等およびダイバーシティの現状状況について理解を深め、社会・文化・歴史・政治的背景を含めて分析・考察する国際比較研究し、類似と相違についての理解を深めることを通じて、新たな知見を得ることを目指す。担当研究者が、それぞれの専門領域に沿ってノルウェーの研究者と組んで研究を進める（本報告書 51 頁参照）。

ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku (UTF-2020/10135)

UTFORSK 「ノルウェーと日本におけるジェンダー平等およびダイバーシティ教育」

【研究担当】

小林誠（基幹研究院人間科学系教授）[本学側代表]

戸谷陽子（IGS 所長）[本学側プロジェクト・コーディネーター]

石井クンツ昌子（理事・副学長）

岡村利恵（グローバルリーダーシップ研究所特任講師）

吉原公美（リサーチ・アドミニストレーター）

ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センター研究者

【期間】 2021～2025 年度

【概要】

ジェンダーおよびダイバーシティ研究教育の質を高めるための新しい教育戦略を構築するプロジェクト。学生、若手研究者、教員が、パートナー大学での共同セミナーや共同指導を経験するなど、質が高く活力に満ちた、国際的な学びの環境を提供する。研究発表や産学連携への参与など若手研究者への機会提供や、論文の共同執筆など研究者同士の将来的なパートナーシップ発展につながる活動も行う。また、SDGs のジェンダー・ダイバーシティ関連の目標達成に資する成果を目指す（本報告書 51 頁参照）。